



発行責任者

病院長

岡野友宏

編集責任者

広報委員長

高橋浩二

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151

ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

新年のご挨拶

病院長 岡野 友宏

あけましておめでとうございます。

本院は昭和52年の開設以来、32年目を迎えました。大学附属病院の使命は地域医療の核としてその質を担保すること、先進的かつ高度な医療を実践すること、そして明日を担う人材を育成することにあります。どれもが等しく重要であり、互いに関連するものです。それらすべてが貫徹されてはじめて大学病院の存在が社会的に認知されます。しかし大学病院は同時に社会の様々な規約や人の問題が絡み合っており、渾然とした組織体となっています。昨今の救急患者のたらい回し事件などはこの組織体のバランスが失われた結果と思われる。私たちは医療がこのような負の方向にならないよう制御しなければなりません。それには病院の構成員一人一人が、真心をもって常に人に尽くすという本学の建学の精神に則って行動することが最も重要であり、それを支柱に結束することが社会に対する使命を果たすことになると考えます。

本年は以下の事業を計画しています。まず、病院の環境整備、老朽化した診療室や診療システムを整備すること、これは数年前からの継続的な事業です。再診受付での手続きを簡素化するために、カルテを事前に各科の先生方に搬送しておきます。再来受付機での登録となり、受付でカルテを受け取る手間を省きます。次回の診療予約が必須ですが、急患時などにも適宜、対応できるようにいたします。これに関連して、院内で他の診療科を同時に受診する場合、エックス線撮影や血液検査などを受ける場合には、青い袋にカルテを入れてそれを持って移動して頂きます。これは患者さんの個人情報保護のためです。もし、カルテの中身を知りたいときには担当医や医事課職員にその旨を伝えてくだされば、開示いたします。担当医はカルテに診療の詳細を記載しますが、また内容をコンピュータにも入力します。このため実際の診療時間がこれまでよりも長くかかるかもしれません。一方、本院は保険医療機関であり、私たちは保険医であり、社会保険のルールに従って診療しております。しかしカルテ記載において誤りなどが生じることもあり、後日の審査で訂正されることがあります。いずれはす

べて電子化する予定で、これにより診療時間や記載ミス等の改善を図ります。

また、ご紹介の患者さんについては、地域の先生方との連携を密にして、協力し合って診療に当たることにより、診療の快適さと質の向上に努めます。本院は東京城南部から川崎市や横浜市に至る広い地域を視野に入れ、地域の一般歯科診療所のみならず、病院歯科、昭和大学関連病院との協力態勢を整えて、地域医療の一層の充実を図ります。様々な障害のために日々の食事に不自由な方のリハビリや、摂食指導を行っておりますが、こうした活動も本院の特徴の一つです。ご相談いただければ対応いたします。

本院はご承知の通り、医育機関です。歯学部に入學するとできるだけ早い時期から口の衛生や歯科診療の現場に関わることが学習のモチベーションを上げるとされており、本学でも本院をはじめとしたいくつかの医療施設や保健福祉施設で実習を行っております。卒業後も臨床研修やその後の認定医・専門医になるための修練の場として本院は利用されています。また患者さんの診療内容が後日の研究に活用されることもあります。いずれの場合も口頭や書面にて個々に、患者さんの了解を得ることになっています。またそれを拒否されても差別されることはありませんが、本院がそうした医療施設であることもご理解いただきたいと存じます。

なお、本院は従来から建物内での喫煙は禁止されていますが、さらに一歩進めて、本年2月から敷地内禁煙といたします。喫煙が口の衛生にも悪影響を及ぼすことは科学的に立証されています。ご協力お願い申し上げます。なお、同時期に総合内科にて禁煙外来を開設しますので、ご利用ください。

本年も引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成21年正月



医事課 紹介

医事課の主な業務は、診療録に関する業務・医療費の請求に関する業務・統計に関する業務の3つに大別されますが、この主な3業務の他に、大学病院として特筆すべき点として歯学部学生の実習受け入れがあり、これらの業務に専任職員11名と派遣職員4名が従事しております。

また病院全体の事業の一環としてカルテ合冊作業が当課で精力的に行われています。毎日診療時刻を過ぎてからの作業ですが、この作業が完了すれば長年の課題が解消されると共に、先生方や衛生士さん達の利便性が増し、ひいては患者様への医療サービス向上につながるものと固く信じて一致団結して業務を遂行しております。

また、今年の大きな目標として電子カルテの導入があげられます。現在のコンピュータシステムは機能が十分でない点もあり、医事課職員はもとより、先生方やコデンタルの皆様にご負担をお掛けしていますが、1日も早く新システムを導入して診療・作業効率等を向上させ、お会計など患者様の待ち時間を短縮したいと思います。

このため、皆様方をお願いすることも増えてと思いますが、医事課職員一同が少しでもお役に立てる様に心がけて努力してまいりますので、温かくご協力いただけますようお願いいたします。

(医事課長 久米 徳明)



医事課内



初診受付



管理課 紹介

管理課事務系職員は、庶務係4名、管財係3名、経理係2名、歯科技工室関係3名と課長の13名の人員で業務を行っています。

業務領域は①監督官庁への許可・認可の申請・各種届出・報告、②新しく歯科医師免許を取得した歯科医師の臨床研修受入、③建物の維持、保全、整備、④機器備品・医療材料・医薬品等の購入及び管理、⑤教職員の福利厚生、経理に係わる業務、⑥その他として新規事業や他に属さない業務を広範囲に行っています。課員一同、基本的な知識を身につけ、定期的な業務処理もちろん臨時的な業務も手際よくこなせるよう、日々努力いたしております。

特に、本院は昭和大学の歯学部附属病院として、創設されてから32年目になり、施設設備は老朽化しております。しかしながら、診療は基より学生教育、研修医教育、歯科医学の研究機関としての役割を果たし、また地域歯科医療の中核病院として常に医療の質を担保しなければなりません。そのため、10年ほど前から年次計画により施設設備の改修を行っております。平成21年度は診療部門の充実のため4階診療部分を改修したいと考えております。

最後になりますが、管理課は患者様からの病院に対する苦情や要望等をできる限り受け入れて、改善したいと常に考えております。何かご不便な点がありましたら、ご遠慮無く初診受付前の書記台に設置してある「患者さまの声」BOXに、ご意見ご要望を投函下さい。

(管理課長 志賀耕二)



「患者さまの声」BOX



ヘビースモーカーの禁煙体験記
—敷地内禁煙施行をきっかけとして—

副院長 佐藤裕二



私は30年間にわたり、1日30-40本というヘビースモーカーでした。何度も何度も禁煙をしてきましたが、いつも3日ぐらいしか続きませんでした。健康への不安もあり、禁煙したいとは思っても、意志の弱さで挫折してきました。

しかし、歯科病院の敷地内が1月末で禁煙となるのをきっかけに何十回めかの禁煙に取り組むことを決意しました。歯科病院で開催された禁煙セミナーを受講し、「内服薬による高い成功率の禁煙治療がある」ことを聞きました。歯科病院にも敷地内禁煙が施行されれば「禁煙外来」が開設されるのですが、待ちきれずに、昭和大学東病院の禁煙外来を受診することにしました。

禁煙外来を受診すると、ニコチン依存度検査や、呼気中の一酸化炭素(CO)濃度の測定や肺機能の検査がありました。非喫煙者では5以下であるCO濃度が25もありました。また動脈血酸素飽和度は95%と、すこし低めでした。チャンピックスという内服薬の処方を受け、禁煙治療が始まりました。

最初の1週間は薬を飲みながら喫煙を続けます。この薬は、ニコチンではないのですが、ニコチンレセプターにくっついて、タバコの離脱症状を軽減します。また、タバコを吸っても、ニコチンがレセプターにくっつくのをじゃまして、あまり満足感がないようにします。実際、薬を飲んでからは、タバコがおいしくありませんでしたので、自然と本数が減りました(20本以下に)。

この間、禁煙するとどんな良いことがあるかを書き出しました。コスト、時間、健康、外見、家族、自信…その結果、以下の結論に達しました。

**「財布と生活にゆとりが出て、内面・外面もみがかれ、自分に自信がもてるようになる。
したがって、長い期間、充実した恋♥を楽しむことができる。」**

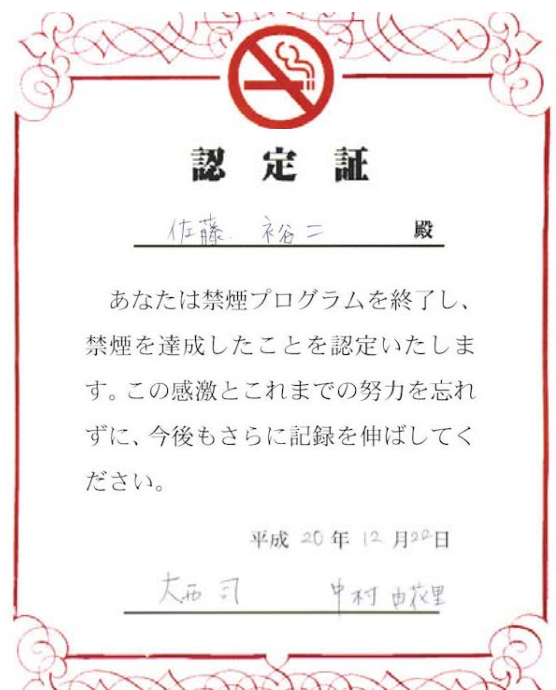
1週間目からいよいよ完全に禁煙が開始です。思ったほど辛くは有りませんでした。開始1日目に禁煙外来を受診すると、COは25であったのが8まで下がりました(5以下が正常です)。動脈血酸素飽和度も97%になっていました。この結果は、禁煙に対する意欲をかき立てました。

さらに、禁煙を開始したことを広く広報しました。歯科病院のメーリングリストに流し、学生の講義で話し、自分自身にプレッシャーを与えました。

薬のおかげか、「ニコチン切れ」という感じはないのですが、仕事が一段落したときなど、タバコが吸いたくなりました。また、口寂しくて、つついお菓子に手が伸びます。多少、体重が増えたようですが、途中から怖くて、体重測定をやめました。「禁煙」と「ダイエット」を同時にはできないので、禁煙終了後にダイエットを始めようと思います。

COも25→8→3→2と順調に低下し、血圧も少し下がりました。痰がへり、咳ばらいが出なくなりました。そうこうしているうちに禁煙が1か月続きました。厚労省の定義では1か月以上タバコを吸っていないと「喫煙者」ではなく「前喫煙者」になります。薬はまだもう少し飲み続けますが、こうして私の禁煙は一応の完了となりました。

充実した恋♥の予感があります(もちろん、家内とです)。良い機会(敷地内禁煙開始)と治療法(内服薬)に恵まれ、周囲の応援もいただけたと感謝しています。



前回のお話は、見えない矯正装置に関する話題でしたが、今回は、できるだけ弱い力を用いて、骨の代謝を阻害しないような、『生体によりやさしい矯正治療』に関するお話です。

ご存知のように、矯正治療には、ブラケットと呼ばれる歯の表面に接着させる装置と、そこに通す金属製のワイヤーが用いられております。従来は、このブラケットにワイヤーをできるだけ強固に結びつけることが、正確な治療をするために必要であると推奨されてきました。

しかし、最近では、あまりにきつく結びつけてしまうと、摩擦抵抗が大きくなり過ぎて、歯を移動する際に、痛い上に動きも悪くなる事が明らかになって来ました。

そこで、我々は、歯の表面に接着するブラケットの形状や材質を改良し、今までとは全く異なるワイヤーの使い方や治療法を開発しております。

現在までのところ、従来の半分以下の弱い力で、しかもかなりのスピードで歯を動かすことに成功しております。また、この方法では、移動する際の痛みも少ないようであります。

私は、矯正治療を始めて20年余りになりますが、この事実に非常に驚いております。

従来の治療上は当たり前とされていた様々な事にも常に疑問を持つ事、そして、常に生体に「やさしく」治療を進める事の重要性を教えてもらった気がします。

現在、特許出願準備中のため、まだその全貌を皆様にお見せすることはできません。お許し下さい。ご興味のある方は、ご遠慮なく矯正科でお尋ね下さい。



初診時



治療終了時

叢生(歯のデコボコ)を治すために犬歯の後ろの歯を抜いて治療した症例です。

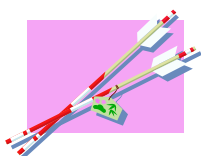
通常の方法では、月に一度の通院で24～30回ぐらいはかかりますが、新しい方法では16回で終了することができました。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

本年が皆様にとって実り多い年になりますように心からお祈り申し上げます。

本年もお口の健康につきましては私ども昭和大学歯科病院の医療スタッフが誠心誠意対応致しますので、何卒宜しく御願い申し上げます。



山中湖にて

KT